



学校便り 琢磨

令和3年度 第8号 R3.6.1 三豊市立詫間小学校

第1回なかよし集会

HP <https://mitoyo.schoolweb.ne.jp/mitoyo/takuma-e/>

5月26日(水)。第1回の「なかよし集会」がありました。この会、正式には「なかよし人権集会」と言います。通称「なかよし集会」は、児童会役員さんと、人権・同和教育担当の先生が企画・運営してくれました。昨年の「なかよし集会」は、放送だけでしたが、今年はオンライン中継で行うことができ、児童会の皆さん、担当の先生、各クラスの代表の人たちの姿が、各教室のテレビを通して見ることができました。



以下は、私が「なかよし集会」で話した内容です。

各クラスの代表の人が、学級の「なかよしめあて」を堂々と発表してくれました。どのクラスも、とてもよいめあてを作ってくれたと思います。全部のクラスが、めあてを達成したら、詫間小学校は、なかよしがいっぱいのもっともいい学校、日本一の学校になれます。まずは、クラスの目標を達成して、学年、そして、全校であわさって、なかよし日本一の学校になってほしいと思っています。そして、みなさんならできると信じています。去年の1回目の「なかよし人権集会」は、コロナの影響で、放送だけだったのですが、今年は、リモートで発表している人の姿がテレビに映された集会となりました。この集会を開くためにがんばってくれた児童会役員の皆さん、めあてを一生懸命発表してくれたクラス代表の皆さん、そして、めあてを一緒に考え、そのめあてを達成しようとかんばってくれている全校の皆さんに、大きな拍手をしてください。

さて、校長先生は、なかよしになるために大切なことは「思いやり」の心であり、それは、自分の心を相手の心にワープすることだと考えています。では、今から自分の心を相手の心にワープさせるためのコツを教えます。とても簡単です。「もし、自分がその人だったら、自分はどんな気持ちになるかな?」と、少しの時間でいいですから考えてみることです。そして、見ているだけでは分からないこともあります。「どうしたの?」「だいじょうぶ?」と話しかけたり、相手の話をしっかり聞いたりすることです。でも、自分がおこっている時、急いでいる時、悲しい時などは、自分の心を相手の心にワープする力がとても弱くなります。それは仕方ないことですが、そのことが分かっているならば、しばらくすると、また、自分の心を相手の心にワープする力がわいてきます。今日は、それだけ覚えておいてほしいと思います。これで、校長先生のお話を終わります。

6月6日の日曜参観は実施します!

本日、香川県独自の警戒レベルが1段階引き下げられ、県内の新規感染者数も減少傾向にあることから、6月6日の日曜参観は、計画通り実施いたします。

- 9:20~10:05...1、3、5年 10:20~11:05...2、4、6年
- 駐車場...運動場及び市駐車場(職員の車はできるだけ移動させておきます。前4列も駐車可。)
- 1教室での参観は20分程度。教室での参観は上限15名。ご協力をお願いいたします。
- 引き渡し訓練等、他の行事は一切ありません。

「真鍋校長の独り言」 その6

授業参観（昭和40年代）の思い出

次の日曜日は、授業参観ですね。しかも、日曜日ということで「がんばって勉強をしているところを見てもらうぞ!」と、今から張り切っている皆さんも多いことでしょう。

私の両親は、二人とも働いていました。今から50年も前、ずいぶん昔のことですので、当時はなかなか仕事を休むことができなくて、授業参観はいつも祖母（うちの近所の瓦屋さん）が来てくれていました。友達は、授業が始まる前、みんな顔は教室の後ろを向いて、親の姿を見つけるとうれしそうに手を振っていました。私は、友達に「よしき君のおばあちゃん来たで!」と言われても、前を向いて座ったままでした。（かわいくない子どもだったと思います。）

小学校2年生か3年生の時に一度だけ、母親が授業参観に来てくれるということがありました。私はうれしくて、うれしくて、その日だけは授業が始まる前、体が完全に教室の後ろを向いて、母親が教室に入ってくるのをワクワクしながら待っていました。その時初めて、後ろを向いて親の姿を見つけることが、どんなに楽しいことなのかを知りました。

教室の後ろの入り口から入って来た母親を見つけた時、私はとてもうれしくなりました。となりの席の友達が「あっ、よしき君のお母さんや!今日は、来てくれたんやな。よかったなあ。」と話しかけてきました。私は、きっと満面の笑顔だったと思いますが、何の返事もしなかったと思います。それよりも、母親の前でしっかりと活躍している姿を見せなければと、気合いを入れ直していたと思います。

その日の授業は、50年経っても忘れもしない「音楽」でした。授業が始まって、親の方を向いて歌を歌うという時になって、私は大変なことに気が付きました。勉強で使う音楽の教科書はあるのですが、そのページだけが破れていてないのです。これまでに習った歌なら何とかごまかして歌うことができるのですが、今日、初めて習う歌だったのです。とにかく歌詞が分かりません。先生が、「1番の歌詞を読んでくれる人?」と言われても、私以外の全員は「はい!」と手を挙げているのに、私だけは、手を挙げるできません。おまけに「よしきさん。どうしたのかな?いつも一番に手を挙げるのに。今日は、初めてお母さんが来てくれたので緊張しているのかな?」なんて、余計なフォローをしてくれるものですから、教室中に笑いが起こってますます手を挙げるができなくて、ましてや「教科書のこのページだけがありません。」と、親がいる前で言うこともできず、結局、その日の授業参観は、活躍どころか1回も発表すらすることなく、ずっともじもじして終わってしまったのです。

家に帰ってからも大変でした。夕食の時に「お父さん、今日は、本当になさけなかったわ。せっかく都合つけて授業参観に行ったのに、よしきは、もじもじして、1回も手を挙げんし、歌やって、他の子は一生懸命大きな口を開けて歌ってるのに、この子ときたら、口も開けないで歌っているんか歌ってないんかも分からん状態で。本当になさけなかったわ。」と母親。「まあ、よしきは、いざという時には、ダメなんよ。」と姉。「今度は、もっとがんばらないといかんぞ。」と父。

本当なら、その日の夕食は、全くその逆の状態を想定していたのです。「お父さん、今日は、本当に参観に行ってよかったわ。よしきは、一番に手を挙げて、大きな声で歌詞を音読したんですよ。お母さん、本当に感心したわ。」と母。「そうなんよ。この子は、いざという時には力を出す子なんよ。」と姉。「そうか、それはすごかったなあ。お父さんも、ぜひ見てみたかった。」と父。それを聞きながら、満面の笑みで夕食を食べる私・・・だったはずなのですが。

その夜、私は、勉強机の上の積み重ねられたプリントの山の中から、音楽の教科書のそのページを見つけました。

そして、母が小学校の授業参観に来たのは、その日が最初で最後でした。

